



地域未来創造事業体きたもっく
未来は自然の中にある。

有限会社きたもっく

長野原町



- ▶ 代表者: 福嶋 明美
- ▶ 設立年月日: 2000年4月
- ▶ 資本金: 1,000万円
- ▶ 従業員数: 106人

- ▶ 住所: 吾妻郡長野原町北軽井沢1924-1360
- ▶ TEL: 0279-84-6633
- ▶ Mail: contacts_kitamoc@kitamoc.com
- ▶ URL: <https://kitamoc.com/>

当社HPへは
こちらから→



企業紹介

地域資源の価値化事業とキャンプ場をはじめとしたフィールド事業によって、地域での持続可能な循環事業を实践。



経緯・背景

群馬と長野の県境にそびえる、活火山浅間山の麓「北軽井沢」。火山灰土の荒野が広がる寒冷地に木を植えることから始まった場づくりは、年間10万人が訪れる日本有数のキャンプ場へと発展し、さらに進化を続けています。

2019年には地域山林を取得し、地域資源の生産加工を本格化。薪等の木材生産に加えて養蜂にも取り組み、消費出口と組み合わせた地域資源の持続可能な6次産業化を实践しています。

具体的な取組

地域山林(約240ha)を所有し、浅間高原北麓の特徴である豊富な広葉樹を中心に計画伐採をしています。伐った木材は主に薪(木質エネルギー)となり、建材や家具材としても利用することで木を余すことなく活用。木を伐って光が入った山林では、広葉樹の萌芽更新と組み合わせた養蜂によって多様な花から良質な蜂蜜が採れます。

価値化された地域資源は、キャンプ場「北軽井沢スイートグラス」やミーティング施設「TAKIVIVA(タキビバ)」、地域の一般家庭で活用。薪ストーブや薪ボイラーを設置し、薪の年間消費量は約863m³に及びます。建築には地域材を加工した建材、家具材をふんだんに使用。蜂蜜や蜂蜜加工食品は、自然の魅力をダイレクトに味わえる商品として販売しています。



成果・効果

1,2,3次の様々な事業展開は、未来を見据えた地域資源の持続的活用を可能とし、地域産業へと発展しています。多くの雇用を創出し、薪の自社生産以前は46人だった社員は106人まで拡大しました。新卒の若者からセカンドキャリアの高齢者まで、地元、移住者を含め幅広く雇用しています。

養蜂における蜂箱設置は、有休山林や耕作放棄地の再生につながります。地元農家や地域企業との協業で蜂蜜加工食品の企画販売も活発化。2020年には蜂蜜を使った酒類の開発企画が「群馬県6次産業化チャレンジ支援事業」で1位となる等、地産蜂蜜の生産量増加をすすめています。

キャンプ場は薪ストーブの導入をきっかけに冬キャンプの礎を築き、2018年には日経プラスワン「家族で冬キャンプ」が選ぶ東日本ランキングで1位となりました。

これまでの事業取組が評価され、「ディスカバー農山漁村の宝 関東農政局選定(2020年)」「6次産業化アワード 食料産業局長賞(2021年)」を受賞しています。

当社にとってのSDGsと、その展望

様々な形で創出される自然に触れる体験は、身体的な健康増進に留まらず、メンタルヘルス向上にも寄与します(3)。地域山林から伐り出した木質エネルギーは一般家庭や宿泊施設、社内各事業地の熱源として活用。エネルギーを安定供給できるよう、地域の木質産業廃棄物を積極的に回収し、薪の販売会員制度も構築しています(7・9・15)。地域資源の活用によって雇用創出をはじめ地域の持続可能な発展に寄与できるよう、様々な事業を組み合わせで展開しています(11)。